

英語 Here We Go! 相談室 教育

特集1

小学校英語

「評価」の悩みをサポートします!

特集2

中学校英語教科書『Here We Go!』

確かな英語力を育む「帯教材」の使い方



新連載

Let's enjoy!
Small Talk

子どものための
BOOK GUIDE

Bears in the Night

What's
this?

from
Austria



卵のパックに入れられた華やかな色合いの飾り。これは、ウィーンの広場で見かけた「イースターエッグ」です。

十字架にかけられたイエス・キリストが、3日後に復活したことを祝う「イースター(復活祭)」。今年は4月4日でした。カトリックの影響が根強いオーストリアでは、クリスマスに次ぐ大きなお祝いの日です。子どもたちは、庭や家の中に隠された卵やお菓子、おもちゃなどを探すエッグハントを楽しみます。生命誕生の象徴である「卵」は、多産の「ウサギ」とともにイースターのシンボル。家庭ではネコヤナギの枝に卵の飾りをいくつも吊るします。こうした飾りは、イースターの2週間ほど前から広場などにたち並ぶ屋台で売られます。

写真は本物の卵の殻から作られたものですが、ガラスや木製のもの、卵型のキャンドルやお菓子(チョコレートなど)も登場します。

バレンタ愛／オーストリア・ウィーン在住 海外書き人クラブ会員

写真のダウンロードは
こちらから



カラフルなイースターエッグや、売り場の様子がわかる写真を用意しました。授業などにご活用ください。



英語 Here We Go! 相談室

2 0 2 1
| No.08 | C O N T E N T S

What's this?

イースターエッグ
<from Austria>

特集 1

- 02 小学校英語
評価の悩みをサポートします!
監修: 東 仁美 / マンガ: あべかよこ

特集 2

- 08 中学校英語教科書『Here We Go!』
確かな英語力を育む
「帯教材」の使い方

Sounds and Letters
平山朝子

Let's Talk!
畑中 豊

Story Retelling
田中佳奈

家庭学習サポート教材のご紹介

連載

- 18 Let's enjoy!
Small Talk [Lesson1]
誕生日
窪田 遼

- 20 子どものための
BOOK GUIDE [第8回]
Bears in the Night
金原瑞人

評価の悩みをサポートします!

教科化2年目を迎えた小学校外国語。

2年目の今だからこそ見えてきた課題もあるのではないのでしょうか。

今回、本誌では、小学校外国語の「評価」の悩みについて取り上げます。

実際の授業の中でのよくある悩み、今一度押さえておきたいポイントなどについて

東 仁美 先生(聖学院大学教授)に解説していただきます。

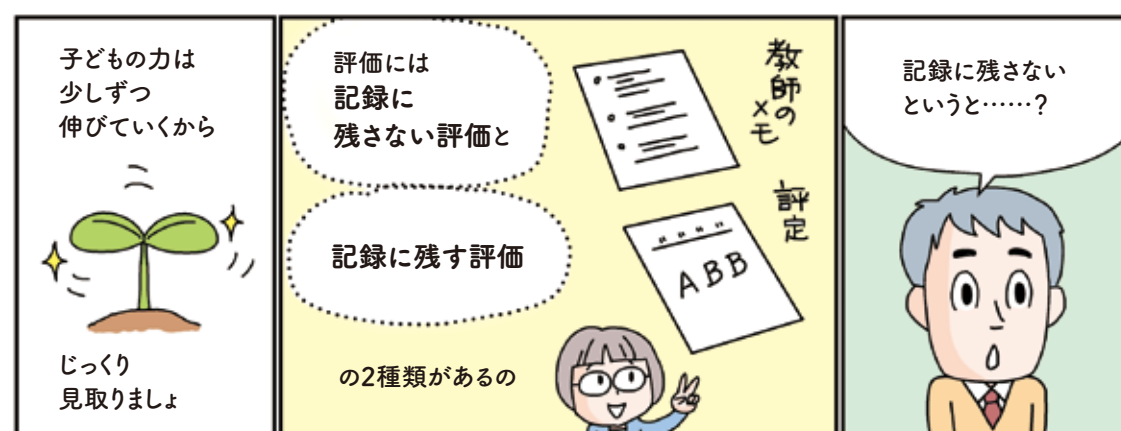
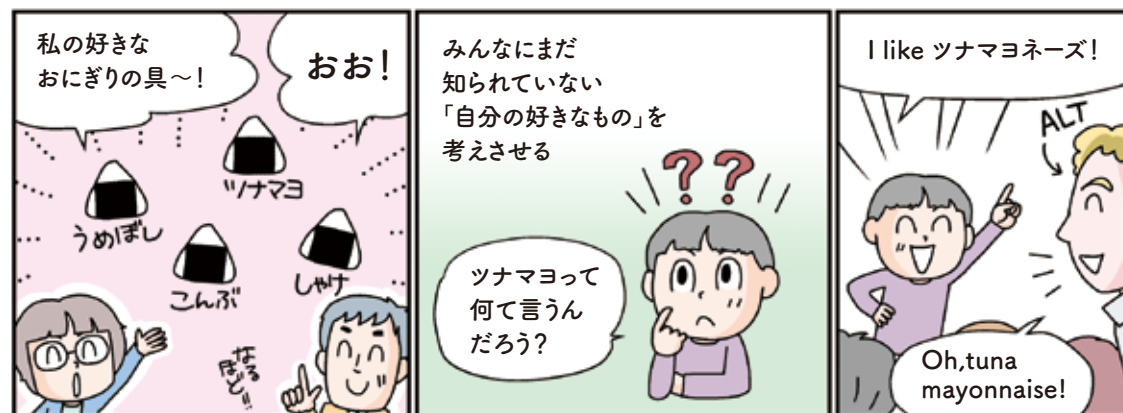
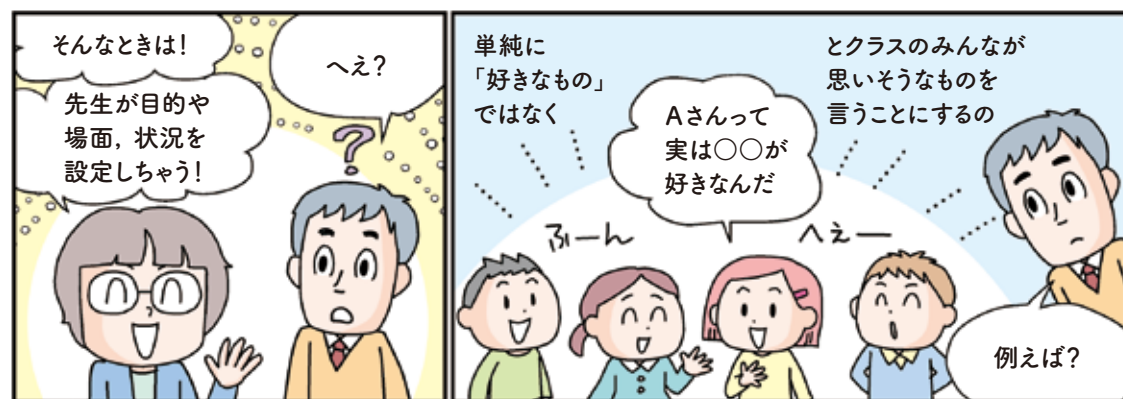
「評価」に関するサポート資料についてもご案内いたします。

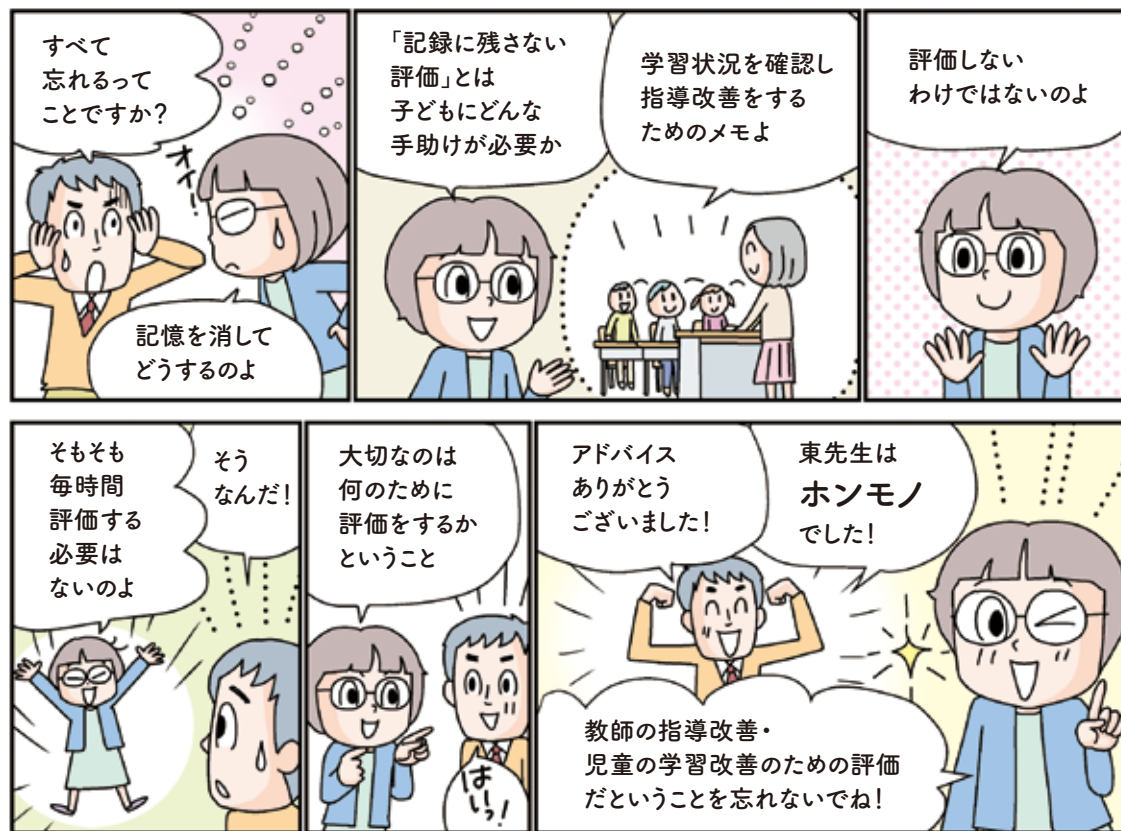
小学校英語

こんなとき、どう評価すればいいの?

監修: 東 仁美
マンガ: あべかよこ







Here We Go! 5・6 学習指導書専用ウェブサイトのご案内

評価のための資料を多数ご用意しております。ぜひご活用ください。

- 評価の全体計画のための資料
- 評価テスト案 (PDF・音声)
- 英語の文字と音に関するテスト
- パフォーマンス評価実施ガイド
- パフォーマンス評価基準表案
- パフォーマンス評価基準表ひな型
- については、英語版も付いています。ALTとの打ち合わせにご活用ください。



Teacher's Manual
p.18記載のパスワードを
入力してご覧ください。

(解答)



評価テスト案 (児童用)

指導と評価の一体化で充実した授業を

新学習指導要領全面実施から1年、高学年外国語科では教科書を活用した授業が展開されてきました。「指導と評価の一体化」という視点で外国語科の授業を考えてみましょう。

1. 三つの柱に基づいた目標や内容を踏まえた授業実践

新学習指導要領では、各教科の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されました。そして、英語学習の特質を踏まえて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の五つの領域別に目標が設定されています。高学年外国語科では、この領域別目標の達成を目ざした指導を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成します。

教科化2年目を迎え、学習指導要領の目標や内容を再確認し、三つの柱で示された資質・能力を育成するために、検定教科書ではどのような言語活動が展開されているかに注目しましょう。『Here We Go!』5,6では、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動が工夫されています。必然性のある目的や場面、状況が設定され、コミュニケーションの楽しさを体験できる言語活動を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を活用しな

がら「学びに向かう力、人間性等」を育成していくスパイラルを生み出したいものです。

2. 学習評価の充実

学校での教育活動で児童の学習状況を評価するためには、『児童にどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする(『小学校学習指導要領解説 総則編』p.93)ことが重要です。新学習指導要領では「指導と評価の一体化」がこれまで以上に重視され、教育課程や学習・指導方法の改善に向けて、一貫性のある取り組みが求められています。

学習評価では、学習過程における理解度を丁寧に確認する「形成的評価」で学習の進み具合を診断して、学期末には評価規準に照らし合わせて学習状況を記録に残す「総括的評価」をします。外国語科では、年間を通して五つの領域で三つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」でバランスよく評価します。1年間の指導の中で丁寧に見取りを続け、学年末の指導要録には信頼性・妥当性のある観点別評価と評定を記載できるようにしましょう。

参考文献
『小学校英語「5領域」評価事例集』池田勝久 編／教育開発研究所
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』国立教育政策研究所



東 仁美 (ひがし・ひとみ)

聖学院大学欧米文化学科教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。著書に、『小学校英語 はじめる教科書』(共著/mpi松香フォニックス)など。

令和3年度版 中学校英語教科書

Here We Go!

確かな英語力を育む 帯教材の使い方

中学校英語教科書『Here We Go!』は、
3つの特徴ある帯活動用の教材を用意しています。
1回5～10分程度の活動を、年間を通して継続的に扱うことで、
確かな英語力を育むことができます。
本特集では、この帯教材を実際の授業でどのように使うのか、
3名の先生方にご提案いただきます。
明日からの授業に生かせる指導アイデアが満載です。ぜひご活用ください。



Sounds and Letters

小学校の「音と文字」の学びを中学校の
「発音とつづり」の学びにつなげ、少しずつ
単語や文を読む力を身につけるための教材
を、1年の冒頭に設定しました。5分×25
回の活動で、1学期が終わるころには、単語
や文を読むための基礎的な力が身につく設
計です。

私だったらこう使う

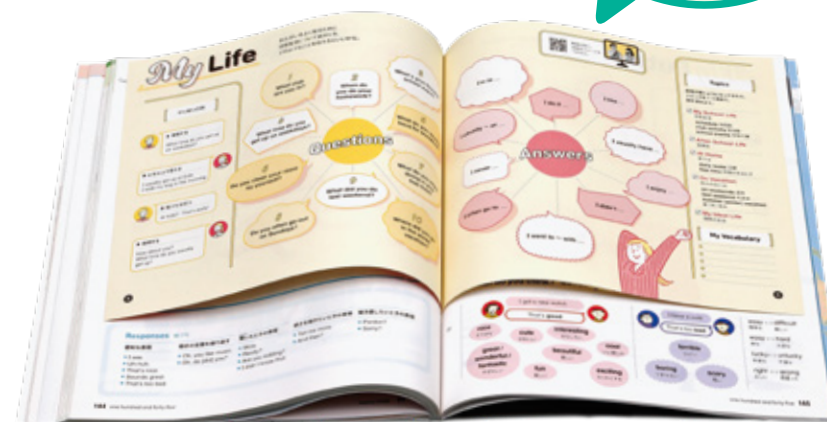
トキワ松学園中学校
高等学校教諭
ひら やま あさ こ
**平山朝子先生の
指導アイデア**
→10ページ

Let's Talk!

即興で会話する力をつける教材です。This
is Me, My Life, My Futureという3つのテー
マで、友達と即興でやり取りする活動が3年
間継続して行えるようになっています。

私だったらこう使う

福島県いわき市立
内郷第一中学校教諭
はた なか ゆたか
**畑中 豊先生の
指導アイデア**
→12ページ



Story Retelling

教科書の巻末に、各Unitのイラストをまとめ
て掲載。場面を表すイラストと簡単な語句
をヒントに、各Unitのストーリーの内容を話
す教材です。本文の英語をそのまま再現す
るのではなく、自分の言葉で話すことで、「話
す力」を継続的に伸ばすことができます。

私だったらこう使う

東京都三鷹市立
第一中学校教諭
た なか か な
**田中佳奈先生の
指導アイデア**
→14ページ





Sounds and Letters

トキワ松学園中学校高等学校教諭
ひら やま あさ こ
平山朝子

『Here We Go!』1年冒頭のLet's Be Friends!, Sounds and Letters, Tongue Twistersは、小学校と中学校の学びをつなぐことができる教材です。これらを、1学期中間テストまでの帯活動で扱うことを想定しています。

授業数が仮に20時間あるとすると、最初の7時間はLet's Be Friends!①～⑦、最後の1時間をTongue Twistersに当て、残りの12時間でSounds and Lettersを扱うことになります。以下は、その授業イメージです。

1～8時間目 (子音字と母音字の基礎指導)

最初の1時間は、p.20の子音字01(pig/big)と02(cap/gap)を、音声CDやQRコンテンツの指示に沿って行います。その際、黒板に以下のようなカードを貼り付けておきます。

p ig
b ig



『Here We Go!』1年 p.20

「音に合わせて繰り返しましょう」という指示に従ってリピート活動を行います。どこで声を出せばよいか生徒たちがとまどわないように、生徒が声を出すべき場所では教師が率先して声を出すようにします。また、どちらの文字(単語)を声に出しているのか意識しながら活動に参加してもらうため、音声に合わせて指し棒などで文字に注目させるようにします。

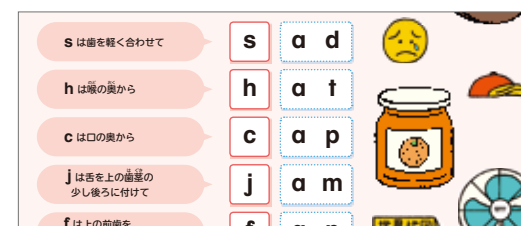
リピート活動の後には「どちらの文字を選びましょう」という活動に移りますが、ここは生徒たちが子音の違いを聞き分けられるかチェックできるチャンスでもあります。生徒たちには、pの音(pig)だと思ったら上を指さすように、bの音(big)だと思ったら下を指さすように指示し、一つ一つ音声を止めて確認しながら進めていきます。

この一連の流れを、02(cap/gap)のカードに貼り替えて同様に行います。毎授業2セットずつ進めていくと、8時間で子音字と母音字の基礎指導を終えることができます。この帯活動1回にかかる時間は6～7分程度です。

9時間目 (文字を音声化できるか確認)

この時間は文字を見て音声化できるかどうか、p.22とp.23を使って確かめます。オンセット(s)とライム(ad)を意識させるため、p.22では、[s]を教師が読み、[ad]を生徒たちに読んでもらうという形で進めます。自信がなさそうなところ

ろ、きちんと音声化できていないところは、音を復習しながら進めていきます。



『Here We Go!』1年 p.22

p.23(図1)では、[m]を生徒たちに読んでもらい、[ix]を教師が読みます。その後はp.23を折線に沿って折り、新しい単語を作ります(図2)。オンセットとライムの組み合わせが変わることで全く別の単語ができることのおもしろさを生徒たちに味わってほしいところです。ここではペアワークにして、生徒1に[s]を、生徒2に[ix]を読んでもらい、教師は机間指導をしながら生徒たちの活動を見守り、最後に全体でもう一度読みを確認するようにします。

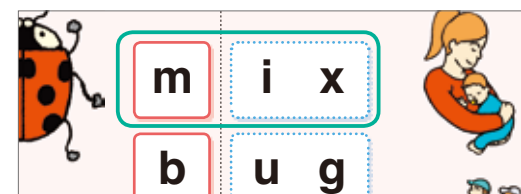


図1

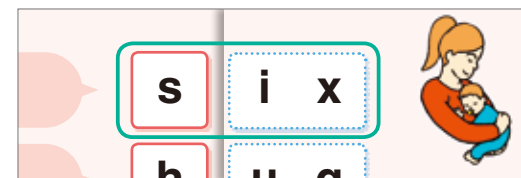


図2

10時間目 (カードゲームで習熟度を確認)

カードゲームを行います。事前に次のような3枚1セットのカードを作っておきます。まず

はp.20に載っている16セットを、クラスの生徒の半数分作ります。

p ig

生徒をペアにしてカードセットを渡し、机の上に全て広げるように指示します。カードは3枚×16セットなので、ペアになった生徒たちの机の上には48枚のカードがバラバラに置かれていることになります。教師は[p], [ig]のようにオンセットとライムを続けて発音し、生徒は上記の3枚のカードを取ります。最終的に多くのカードを手に入れた方の生徒の勝ちです。

11時間目 (母音字の異なる読み方の指導)

p.24の3「母音字の異なる読み方」に取り組みます。「音に合わせて、繰り返しましょう」という活動のところでは、1～8時間目と同様に、教科書に載っている表と同じものを黒板(または電子黒板)に提示しながら行います。Checkまで入れると、約8分程度の活動になります。

12時間目 (2文字の子音字の指導)

p.24の4「2文字の子音字」でSounds and Lettersの活動を終えますが、10時間目に行ったカードゲームは時間が許す限り繰り返して行い、文字と音声のつながりの定着を図りたいと思います。

1年生の初めに、文字を正しく読むための基礎的な力をしっかり身につけることで、生徒たちは、中学校での英語学習を安心して進められることと思います。



Let's Talk!

福島県いわき市立内郷第一中学校教諭
はた なか ゆたか
畑中 豊

『Here We Go!』のLet's Talk!は、即興でやりとりする力をつけられる教材です。4月からの授業の中にどのように取り入れると効果的な学習につながるか、提案いたします。

Let's Talk! をいつ使うか

授業の初めにアイスブレイキングとして行います。質問は各学年26〜27個あるので、週1回の帯活動として位置づけてはいかがでしょうか。長期休暇明けの質問など、複数回使える質問もあるので、1年間ですべてのQuestionsとAnswersを扱うことができます。

教師 Let's enjoy talking in English.

Please do *janken* with your partners.

生徒 One, two, three, go! Go! Go!

(Rock, scissors, paperよりもスピーディーで、勢いがつく、おすすめのジャンケンです)

教師 The winners, ask this question to your partners.

勝者 What did you do yesterday?

相手 Well, I went to the sushi bar with my family. I had tuna and octopus. They were good....

同じことを3回繰り返します(1回目は隣同士、2回目は前後、3回目はクロスというように)。4人グループで行うと、言えなかったところを修正したり、パートナーのうまい表現をまねし

たりと、学習の調整を行うことができます。また、ペアを変えることで常に新鮮な気持ちで活動にのぞむこともできます。

Let's Talk! をどう使うか

1学期は、お互いをよく知るためにThis is Me, 学校生活が軌道に乗ってきた2学期はMy Life, 進級や進学を意識する3学期はMy Future, というように前から順に進めていくのがおすすめです。基本文の定着を図る場合は、メインのコミュニケーション活動として位置づけます。しっかり時間を確保して、⑧ページの「ステップアップのしかた」や「学びをつなげよう」で紹介している活動を行うのもよいでしょう。いくつかの文を話せたかを記録させる場合は、つまづいたときにパートナーがしてくれた助け船もカウントに入れてはいかがでしょうか。名づけて「アシスト・トーキング」。ぜひお試しください。

また、教科書右側のTopics(③)で提案している「会話が续くようになってきたら、トピックを一つ決めて、話を深める」活動を、パフォーマンステストとして学期末に位置づけるのも一案です。その際にQRコードからアクセスできるモデル動画(②)を視聴させれば、生徒は真剣に、繰り返し視聴するでしょう。

Let's Talk! がうまくいかないときは

モデル動画のように生徒が話せるようになるには、何度も何度も、手を替え品を替え指導に

あたるという忍耐力が必要です。英語力はもちろん、クラスの雰囲気や生徒の人間関係などが成否に大きく影響します。教科書左側の「やり取りの例」(①)や、左下のResponses(④)、右下の感想や印象の言い方(学年が進むと語彙も増えています)(⑤)などを存分に活用させていただいて、次のような活動を取り入れてはいかがでしょうか。

学期はじめに行う、カードを使ったゲームです。4人グループでジャンケンをして、1番になった生徒が質問の文を読み、他の生徒が答えとしてふさわしいカードを取ります。スピード勝負は盛り上がります。また、こうかん絵日記(友達の日記を読み、コメントを書く)など、書く活動とリンクさせるのも効果的です。友達の発信にどう反応するか、日頃から鍛えておきたいものです。スピーチやリテリングなど、リスナーを意識

して発信する活動をふだんから行っていると、スムーズなやり取りができるようになります。自分のことを言うときは手を胸に当て、言いたいことがなかなか言えないときは両手を動かし、“Well”や“Uh”といったつなぎの表現を織り交ぜるなど、全力で伝え合う生徒を育てたいですね。

Let's Talk! を行う意義とは

キャリア教育で育てるべき資質能力のひとつに「人間関係形成力」があります。Let's Talk!のねらいは、やり取りする力や即興力を育てることはもちろん、お互いのことをよく知ることによって信頼関係を築くことや、AIにはできない、人と人との心遣いを育むことなのです。生徒が笑顔で話すごとができ、居心地がいいと思える授業を構築するために、Let's Talk! が大きく貢献してくれると思います。

My Life

おたがいをよく知るために、日常会話について話すとき、どのようなことを伝えたいのか。

Questions

- What club are you in?
- When do you do your homework?
- What's your favorite school event?
- What time do you get up on weekdays?
- What do you usually have for breakfast?
- Do you clean your room by yourself?
- What do you enjoy doing in your free time?
- What did you do last weekend?
- Do you often go out on Sundays?
- Where did you go during the winter vacation?

Responses

- 便利な表現**
 - I see.
 - Uh-huh.
 - That's nice.
 - Sounds great.
 - That's too bad.
- 相手の言葉を繰り返す**
 - Oh, you like music.
 - Oh, do [did] you?
- 驚いたときの表現**
 - Wow.
 - Really?
 - Are you kidding?
 - I didn't know that.
- 続きを聞きたいときの表現**
 - Tell me more.
 - And then?
- 聞き直したいときの表現**
 - Pardon?
 - Sorry?
 - Excuse me?
 - I didn't hear you.

Topics

- My School Life** (学校生活)
 - schedule (時刻表)
 - club activity (部活動)
 - school events (学校行事)
- After-School Life** (放課後)
 - home (家)
 - daily tasks (日常)
 - free time (時間があふるとき)
- On Vacation** (休みの日)
 - on weekends (週末)
 - last weekend (先週末)
 - summer (summer) (winter) (vacation) (夏) (冬) (休暇)
- My Ideal Life** (理想の生活)

My Vocabulary

I got a new watch. That's good. nice cute interesting cool I have a cold. That's too bad. terrible boring scary easy → difficult 簡単 → 難しい lucky → unlucky 幸運 → 不運 right → wrong 正しい → 間違っている

『Here We Go!』1年 Let's Talk!



Story Retelling

東京都三鷹市立第一中学校教諭
たなか かな
田中 佳奈

リテリングに初めて取り組むとき、とまどう生徒がほとんどかと思います。私のクラスも、リテリングに取り組み始めたばかりのころは、沈黙してしまう生徒もいて、自分の言葉で表現するのはこんなにも難しいことなのかと考えさせられました。しかし、5, 6か月の我慢が、年度末には非常に実りのあるものになり、リテリングの効果を生徒も私自身も実感しているところです。

今回は、『Here We Go!』の帯教材「Story Retelling」の活用方法について、これまでの指導経験もふまえながらご紹介します。

「できた」という経験を大切に

Story Retellingの基本的な進め方は、『Here We Go!』のTeacher's Manualにも示されているとおり、ペアでの活動を想定しています。リテリングを行うためには、クラスの状況や学年に応じて、何らかの足場かけが必要ですが、ここでは少し思い切ったやり方を提案します。

始めるタイミングは、1年生の2学期以降を想定しています。リテリング活動の初回は、あえて何のモデルも示さず、生徒に挑戦させてみてはどうでしょうか。当然、思うように言葉が出ない生徒がほとんどですが、そうなったところで、教師がモデルを提示します。話すことが苦手な生徒にとっては、それでもかなりハードルの高い活動です。最初は暗記でもOKということにして、どの生徒にもまずは一言言わせて、達

成感をもたせます。できないところからスタートして、少しでも「できた」ことを実感させるのがねらいです。

活動中に気がついたことはメモさせて、毎回必ず振り返りの時間を設けます。慣れないうちは登場人物のせりふをなぞるだけの生徒もいますが、振り返りの時間を設けることで、友達から学んだり、接続詞や副詞の必要性に気づいたりしてレベルが上がっていきます。リテリングは、話すときだけでなく、聞くときも能動的な意識をもつことが大切だと理解させます。

また、2, 3年生には、“I think”を入れさせて、自分の意見も加えていくなど、教師がレベルアップのための課題を提示することも必要だと思っています。

初回は30分くらいかけて、リテリングの目的や進め方を生徒に丁寧に伝えますが、慣れてきたら、振り返りも含め5～10分以内に抑えて、できるだけ定期的に繰り返すことを大切にしたいものです。

飽きないように変化をつける

『Here We Go!』の本文ストーリーは、キャラクター設定が非常に明確かつ魅力的です。この特徴を生かして、ナレーションとしてのリテリングだけでなく、キャラクターに特化したリテリングを行うこともできます。2, 3年生でしたら過去形、未来形が使えますから、例えば、「ティナになったつもりでIを主語にして話す」

など、設定によって時制や三単現のsを生徒に意識させることができます。2年生になってから、1年生のUnitに戻ってみるのもいいですね。リテリングの内容が充実し、生徒自身がレベルアップを実感できると思います。

パターン化された活動は生徒にとって安心感がある一方、「また、これ?」という気持ちにもさせてしまいます。帯活動として長く続けていくには、このような適度なハードルやアレンジがよい刺激になると思います。

リテリング前のインプットが重要

リテリングのための足場かけをいくら工夫しても、そもそも中身を理解できていなかったり、読めなかったりするのでは発話につながりません。リテリングの前のインプットが非常に重要

です。『Here We Go!』の紙面にはQRコードがついていて、いつでも音声聞くことができるので、家庭での音読練習のときにぜひ活用させたいですね。QRコードからは、アニメーションも視聴できますが、ミュートにして、アフレコみたいにセリフを当ててみるのもおもしろいと思います。

Story Retellingは生徒にとって楽な活動ではありませんが、苦勞したぶんだけ必ず得るものがあります。概要を捉える読み方の練習にもつながりますし、なによりも自分の言葉で表現できる力がつきます。『Here We Go!』は、生徒たちの興味・関心が湧きそうなストーリーですので、少しでも楽しめるよう工夫しながら進めていきましょう。



音声・アニメーションは、各UnitのQRコードから

『Here We Go!』2年 Story Retelling(Unit1)

中学校英語教科書『Here We Go!』は 家庭学習もしっかりサポート! //

教科書掲載QRコードから
468の映像・音声等のコンテンツが
視聴可能



中学校英語
QRコンテンツ

音声

本文やリスニングの音声を、繰り返し何度
も聴くことができます。リピーティング、オー
バーラッピング、シャドーイングなどの音読
練習にも最適です。

➔ p.10-11, p.14-15の活用例も
ご参照ください。

スライドアニメーション

各Unitの内容に対応したアニメーションで
す。英語力に不安のある生徒でも、本文の
概要を捉えやすく、楽しみながら取り組むこ
とができます。

➔ p.14-15の活用例も
ご参照ください。



教科書から
いつでも
手軽に
アクセス!

Let's Talk モデル動画

中学生がモデルとなって1分程度の対話を
行っています。この動画を視聴することで、
実際の対話のイメージをつかむことができ
ます。

➔ p.12-13の活用例も
ご参照ください。



※「QRコード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

『Here We Go!』完全準拠 家庭学習におすすめの生徒用教材

販売:光村教育図書株式会社



商品の詳細・
価格については
こちら



ワークブック	基本文や新出語句などの知識の確認問題を中心に、読解や自己表現問題を含む総合的な問題演習帳。二次元コードに対応したリスニング問題も掲載。
学習サブノート	授業で学んだことを自由に書き込み、自分なりの整理と復習ができる学習ノート。「ふり返し」の欄で自己評価も可能。
基本文型集	基本的な文法・文型の例文を教科書の学習順にまとめた活用例文集。自習に便利な赤色シート付き。
リスニングCD	リスニングや音読の練習に最適な自宅学習用CD。各UnitやLet's Readの本文、新出語句、基本文のまとめのほか、リスニング問題の音声も収録。専用ウェブサイトに用意されたウェブアプリ版を使うこともできます。

学習者用デジタル教科書+教材 Here We Go! ENGLISH COURSE



商品の詳細・
価格については
こちら



音声の再生速度や、Unit本文のマス
キング、本文実写ドラマの字幕表示
など、生徒の習熟度や学習目的にあ
わせて、コンテンツのレベルやパター
ンを選ぶことができます。

Let's enjoy! Small Talk Lesson 1

〔本日のトピック:誕生日〕

株式会社イーオン 窪田 遼

はじめに

Hi, everyone! My name is Ryo Kubota. Nice to meet you.

このコーナーでは、小学校外国語で扱われる Small Talk についてお話しします。私は各所で小学校の先生方に英語の授業に関する研修を行っています。Small Talk の進め方について教えてほしい。」という声を多くもらいます。今回は First lesson ですので、まずはこの Small Talk が何なのかというところから始めましょう。

Small Talk とは

文部科学省から2017年に示された「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」を見てみましょう。Small Talk とは、先生や子どもたちが、あるテーマのもと、自分の考えや気持ちを伝え合う活動のことです。授業2回につき1回程度行われる帯活動として設定されています。5年生では先生の話聞くことを中心に、6年生では児童どうしのやり取りを中心に活動を行うことになっています。ただし、6年生であったとしても、年度はじめてありますし、それまでの積み重ねの状況もさまざまですから、先生の話聞くことを中心にしたスタイルの Small Talk から始めるのもよいと思います。

Small Talk の目的

この活動には目的が二つあります。一つは、既習表現に繰り返し出会い、定着させること。もう一つは、対話を続けるための基本的な表現を定着させることです。

英語で「I made small talk.」とえば、「雑談をした。」ということになりますが、活動としての Small Talk にはしっかりと役割や目的が与えられていることを覚えておきましょう。

Small Talk の準備

今回は5年生のスタイル、「先生の話聞く」ことを中心にした Small Talk を以下の5つのステップに沿って準備しましょう。

①ターゲットにする既習表現を決める

今回は例として、『Here We Go!』5 Unit 2にある「誕生日や誕生日プレゼントに関する表現」をターゲットにします。言語材料としては、「My birthday is...」 「I want... for my birthday.」、日付の言い方などが考えられます。

②適切なトピックを決める

最初に Small Talk を行うときは、「私の誕生日」や「誕生日に欲しい物」で構成するのもよ

いと思います(例1)。授業の活動の中で、すでに同様のやり取りを行っている場合は、アレンジを加えるなど少し工夫したいものです。そこで私は、「息子へのプレゼント」をトピックにしてみました(例2)。ここでのポイントは、子どもたちが知らない先生自身の話を入れることです。自分なりのトピックが決まると、おもしろくなりそうですね。

③トピックに合った自分自身のことについてのトークを作成する

子どもたちが意味を推測できる英語であり、興味を引く内容になるように心がけましょう。右の Small Talk 例には、既習表現とともに、未習の言語材料も入っています。授業内で出会っていた言葉が多いほど、後に学んだときの気づきが大きくなるので、私は未習表現を完全に避ける必要はないと考えています。ただし、未習表現はクラスの子どもたちの理解度を踏まえて、適切に選ぶようにしましょう。

④子どもたちへの話の投げかけを考える

“When is your birthday?” “What do you want for your birthday?” という問いかけで、話をクラスの子どもたちに広げられそうです。ここでは、既習表現で答えられる問いかけにしましょう。

⑤必要な視覚資料を準備する

Small Talk で使用する言語材料と、子どもたちの知識のギャップを埋めるために、補助となる視覚資料を用意することをお勧めします。実物や写真、黒板にイラストを描くのもかまいません。今回の例では、右の写真のようなペンのほか、my son や toy car といった語彙の理

解を助ける写真を用意しました。視覚資料やジェスチャーを使って、内容が推測しやすくなるように心がけましょう。

Small Talk 例1

When is your birthday?
When is my birthday? (児童に発話を促す)
My birthday is April 1st.
What do you want for your birthday? (児童に発話を促す)
I see. Look at this pen. It's very old. So, I want a new pen for my birthday.

Small Talk 例2

Hi, everyone. How are you today?

Please look at this picture. This is Hanata. He is my son. He is two years old now. What's this? (児童に発話を促す)
Yes, it's a toy car! He loves cars. His birthday is July 10th. This car is the birthday present from me. He really loves it. He plays with it every day.

When is your birthday? What do you want for your birthday?
Riku, When is your birthday?



Small Talk 例の
音声はこちら

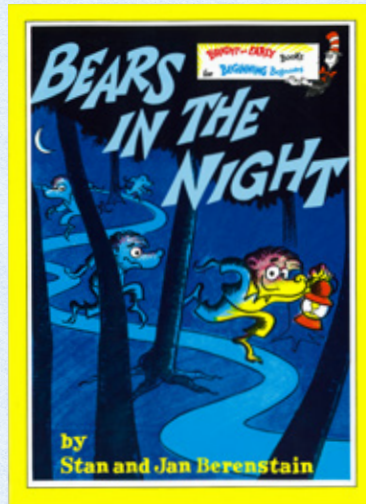
窪田 遼 くぼた・りょう
株式会社イーオン 法人事業本部
学校教育課 専任講師

留学経験なしでイーオンに入社し、イーオンスクールでの教務主任を経て、2016年6月より現職。
全国の自治体での教員研修を担当。特に、小学校教員への指導には定評がある。
J-SHINE 小学校英語指導者資格保有。



子どものための B O O K G U I D E

— 3 —



Bears in the Night

著者：Stan Berenstain
Jan Berenstain
出版社：HarperCollins

この絵本には、びっくりしました。30ページほどの物語なのですが、なんと次の24の単語だけで構成されているのです。

in, bed, out, of, to, the, window, at, down, tree, over, wall, under, bridge, around, lake, between, rocks, through, woods, up, spook, hill, back

もちろん、未就学児童向けの絵本なら、単語数の少ない作品もたくさんあります。しかし、これはちゃんと物語があって、おもしろく、また、小学生が声に出して読むのにもぴったりなのです。

どんな話かというと、7匹の子熊がベッドで寝ていると(In bed)、奇妙な声がきこえてくる。そこで、Out of bed, To the window, At the window, Out the window...と続いて、木を伝って下におりて(Down the tree), Over the wall. 橋の下をくぐって、湖を回って、岩の間を通過、林を抜けて、丘を登っていくと、大きなフクロウが大声でWHOOOO!(これは24の単語の中に入っていない)子熊たちはびっくりして駆け

戻って、最後は、Back in bed.

もうお気づきでしょう。動詞がひとつもないのです。英語圏の絵本を教材に使うとき、困るのは、幼い子向けのものでも平気で過去形が出てくることです。もちろん、それは当然で、現地の子どもたちは日常生活で、普通に過去形も未来形も使っているのですから。ところが、goの活用さえ習ってない日本の小学生にwentやgoneの出てくる絵本はとっつきにくい。その点、この絵本は無敵です。

それにしても驚くのは、動詞がなくても物語ができること！ それも動きがあって楽しい。Over the wall → Under the bridge → Around the lake...とリズムよく続いていくので、単語を隠して当てるクイズにも適しています。最初はbedやwoodsを隠して、そのうちOverやUnderといった前置詞を隠して。いろんな遊びができると思います。

蛇足ながら、Over the wallは「壁をこえて」ではありません。「塀をこえて」です。ついでに、Humpty Dumptyの歌もみんなできいっしょに歌いましょうか。

金原瑞人
かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど580点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。

学びをわくわくさせるのは
デジタル教科書だ。



好評
発売中!

Digital Textbooks & Learning Materials

光村図書デジタル教科書 & デジタル教材

ラインナップ

■ 令和2年度版小学校教科書準拠

学習者用デジタル教科書【ユーザーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各 550 円

学習者用デジタル教科書+教材【ユーザーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各 990 円

指導者用デジタル教科書(教材)【学校フリーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各 63,800 円 / 20,900 円 (1年間利用)

■ 令和3年度版中学校教科書準拠

学習者用デジタル教科書+教材【ユーザーライセンス】

Here We Go! ENGLISH COURSE

1～3 …各 990 円

指導者用デジタル教科書(教材)【学校フリーライセンス】

Here We Go! ENGLISH COURSE

1～3 …各 82,500 円 / 27,500 円 (1年間利用)

*価格はすべて税込みです。

小学校英語デジタル教材

マスターシリーズ

【学校フリーライセンス】

アルファベットマスター

27,500 円 / 8,800 円 (1年間利用)

リズムマスター

27,500 円 / 8,800 円 (1年間利用)

ワードマスター

27,500 円 / 8,800 円 (1年間利用)



表示ソフトウェアは、
「まなビュー」を
採用しています。



▼詳しい商品情報はこちら

www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_digital

SNS公式アカウントを開設しました

より多くの先生方や教育関係者のみなさまに役立つ情報をお届けするため、
光村図書は2021年より、LINEとTwitterによる情報発信を開始いたします。



LINE

明日からの授業づくりに役立つ情報・
資料を、いち早くお届け。友だち登録
の際に教科を選択すると、その教科の
情報のみを受け取ることができます。

「友だち追加」はこちらから

LINEアプリ起動→ホーム→友だち追加



Twitter

光村図書の懐かしの教材や、旬の教材、
教科書にちなんだ豆知識やクイズなど、
教科書を身近に感じていただける情報
をお届けいたします。

フォローはこちらから



YouTube

動画で理解を深めるYouTubeも、引き続き運営しております。



中学校英語
移行資料の
ご案内

令和3年4月より『Here We Go! ENGLISH COURSE』をお使い
になる先生方のための資料をウェブサイトにご用意しています。
授業計画の参考資料としてご活用ください。



英語 Here We Go! 相談室
教育 | No.08 |

2021年4月7日発行

発行人 ● 吉田直樹

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)

イラスト ● 小林マキ

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書